

# 中学校 部活ナビ



**部員数** 約40人(中高合わせて)  
**活動日・時間** 火・水・木・土、平日は2時間ほど  
**部の創立** 2008年  
**学校の創立** 1891年  
**校長** 水谷弘先生



制作費2万~3万円ほどでつくった自作のプラネタリウム(上村先生提供)

海城中学校

(東京都新宿区)

## 地学部

部室をのぞくと、歯ブラシで石をこする姿が目に入ります。そばには寒天作りにはげむ部員もいます。「一目見て部活の名前を言い当てるのは難しいです。」

て、週一回開く部会で情報共有したり、部の掲示板で野外調査の参加を呼びかけたりします。

地学は大地や水、宇宙など世界を形づくる物質を相手にする学問です。「地質」「天文」「気象・水文」「自然災害」など班に分かれて活動しています。班のかけ持ちもできます。

地質班がこすっていたのは多摩川で採取した化石入りの石。「クリニング」という作業でマルヒナガイなどの化石を取り出し、大きさや向きを記録します。寒天は自然災害班が地震による断層のでき方を再現する実験で使う材料でした。



石を採集するときは、あった場所と石の向きをスケッチします

### めざせ地学五輪

天文班は人工の光が夜空の明るさに影響を与え「光害」の調査結果をまとめていきました。愛知県の高校を中心とした全国調査に参加し、十月から観測を始めました。「屋上と地上、晴れとくもり

での明るさのちがいがわかり、今後、大都市である新宿と日本各地との比較が楽しみです」と西尾真輝くん(中三)。

調査で得られた成果は大人の研究者が集まる学会で発表します。わかりやすく伝えるため、ポスターなど資料製作に使うパソコンの技術やプレゼンテーションの力をみがけています。

## 森羅万象フィールドワーク



多摩川で化石が入った石を採集するようす(上村先生提供)



海城中学地学部のみなさん(東京都新宿区)の同中

でうまったそうです。「小学生のときに訪れたが、内容がとても充実していた親にも勧められた(金谷洋紀くん・中一)と、入部のきっかけになった部員もいます。」

まだ創部五年目。全国で予選が開かれる「地学オリンピック」国際大会出場が今後の目標です。(松村 大行)

しょうがくせい

## 小学生のみなさんへ



### 文化部だけど体力つきますよ

中学生部長の小野寺祐樹くん(中3)の話

高校生の先輩と中学生の後輩の仲がいいです。専門的な知識がなくても興味さえあれば楽しめます。

特に楽しいのは、岐阜県や山梨県など他県にも出かけるフィールドワークです。文化部だけど体力がつかます。滋賀県や栃木県など遠くに出かけるので旅行好き、そして電車好きの人も満足できます。

ふだんも新宿という大都会で自然を楽しんでいます。ただし、学校の勉強になかなか結びついていないのが玉にきずですが……。

### 出かけて「本物」を見るのが大切



顧問の上村剛史先生の話

地学があつかうのは大地や気象、水、宇宙など身の回りにあるものです。写真や映像でも見られますが、実際に出かけて「本物」を見ると大きさなどそのすごさが伝わります。教室ではできない体験から、一生ものの知識や経験を得てほしいです。

朝日中学生ウイークリ-

◇姉妹紙「朝日中学生ウイークリ-」で好評連載中の「朝中部活新聞」を再構成しました。